

糖尿病性腎症重症化予防プログラム開発のための研究

研究分担者 後藤 資実 名古屋大学医学部付属病院

糖尿病・内分泌内科 病院講師

研究要旨

研究班において作成された重症化予防プログラムを、実際に各地域の実情にあった形で実施できるようにするため、参加団体代表者によるワークショップを開催し、地域の抱える課題を把握するとともに、ほかの団体の事例を参考により効果的な重症化予防プログラムが実施できる環境構築にむけての意見交換を行った。また、和文書籍を分担執筆し、地域における保健活動に活用できる資料を作成した。

A．研究目的

研究班において作成された重症化予防プログラムを、実際に各地域の実情にあった形で実施できるようにする。また、実施に伴う諸問題に対し、各実施団体相互の情報共有をすすめ円滑に運用できるようにする。

B．研究方法

プログラムへの参加を検討している団体について、現状の腎症重症化予防の取り組み、利用できるリソースおよび医師会、医療機関などとの連携状況の情報を集め、ワークショップ形式で実施にむけて協議する。

本研究において、倫理的な問題は生じない。

C．研究結果

研究への参加時および開始後の2回にわたり、参加団体代表者を対象にワークショップを開催した。糖尿病性腎症重症化予防プログラム実施を実施するにあたり、医師会との連携、保険保健指導スタッフの確保、外部事業者への委託方法など地域ごとに異なる課題が確認された。また、和文書籍を分担執筆し、地域における糖尿病性腎症重症化予防に関する保健活動に活用できる資料を作成した。

D．考察

プログラムの実施にあたり、使えるリソースに応じた目標設定、リソース拡大にむけた関係団体の調整が重要であると考えられた。

和文書籍

後藤資実 糖尿病ケア 2016 vol.13 no.

11 P47-49